

琉球病院 Monthly



独立行政法人
国立病院機構 琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.04
2013.April

発行者 琉球病院事務部長
藤田 博文

院長

村上優 (むらかみ・まさる)
1949年生まれ、
74年九州大学医学部卒業。
86年国立肥前療養所精神科医長。2002国立肥前療養所臨床研究部長、
同年King's College London Institute of Psychiatry (司法精神医学研究所) 長期研修。
2005年花巻病院臨床研究部長(併任)を経て、2006年琉球病院長に就任。
日本司法精神医学会理事、日本アルコール関連問題学会監事、NGOベルヤワル会の副会長として活躍。



基本理念

院長 村上 優

この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

この春、二つのブックレットを琉球病院で刊行します。

一つは「琉球病院アルコール病棟ものがたり—依存症に関わる全ての方へ」です。アスクの「Be」に連載された古川房予アルコール病棟看護師長の「アルコール看護のつぼ」シリーズを基に、琉球病院が行ってきたアルコール問題介入への試みを満載した本です。沖縄では3月1日新聞に『「長寿県」転落』のタイトルで、男性に続いて女性も1975年以降保っていた1位より3位となったことを報じています。男性は1位どころか30位に後退しています。その後メタボやがん、糖尿病などと賑わっていますが、黒幕のアルコール問題に触れる記事は少ないようです。内科受診者や飲酒運転者の調査より沖縄県のアルコール問題の深刻さ、女性では若い世代のアルコール問題に警告を発し、HAPPYプログラムなど早期介入を進めています。アルコール問題に関わるノウハウを満載したブックレットは、依存問題に関わる人々に示唆を与えると確信しています。ご期待ください。

二つめは「震災こころのケアのかけはし—岩手県宮古地区における国立病院機構4施設(琉球病院・菊池病院・花巻病院・肥前精神医療センター)活動記録」です。東日本大震災より2年がたちます。琉球病院は国立病院機構4施設をまとめて、岩手県宮古市を中心とした地区で1年間にわたるこころのケア活動に携わり、その後も被災地でのアルコール問題に関する研究班に属して、現地とのつながりを持っています。ささやかな活動でも継続し、少しでも長く関わることで、地元の支援者や人々との信頼を得ることの大切さを学びました。その学びをまとめて活動報告をブックレットにしたものです。支援とは何かについて私たちの想いが届けばと願っています。

診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・物忘れ外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数

406床

- ・精神科病棟 181床
- ・認知症 50床
- ・アルコール 54床
- ・児童思春期ユニット 4床
- ・重症心身障がい児 80床
- ・医療観察法 37床



●アクセス
路線バス/ 那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス「77番名護東線」浜田バス(下車徒歩3分)
自動車/ 那覇市から40分
沖縄自動車道金武インターから名護向け5分

トピックス

行事・出来ごと

- 病棟棟建替整備の動き
- 進捗状況：基本設計終了(現在実施設計中)
 - 病棟完成予定 平成26年10月
 - 作業療法棟完成予定 平成27年7月
- 琉球病院 映画上映 「むかしMattoの町があった」 対象：各市町村関係者 福祉関係者 医療従事者等
 - 日程：平成25年6月8日 場所：うるま市民芸術劇場
- 第9回医療観察法関連職種研修会 日程：平成25年6月28～29日
 - 場所：沖縄県男女共同参画センター

教育・研修

- 平成25年度新規採用職員等研修 平成25年4月3日(水)～4月5日(金) 対象：新規採用者、転入者
- 春の遠足 平成25年4月18日(木) 対象：重症心身障害児病棟の利用者 場所：近隣公園

● 地域医療連携室だより

・活動状況 当院では、アルコール専門医療を行っており、身体科の医療機関や行政機関及び地域の方々への相談窓口として、電話・来所相談を行っております。アルコール啓発の活動においても医師・看護師等が、活発な活動を継続的にしております。また、今年度からの新たな取り組みとして、アルコール専門のワーカーが、地域関係者への出張アルコール相談にも取り組む予定となっております。3月14日にはアルコール問題への対処と相談についての広報を金武町社会福祉協議会(民生委員の会議)へ行ってまいりました。

お困りのことがございましたら、お気軽に地域医療連携室へご相談ください。



空床状況
3月20日現在

精神科病棟
6床

認知症
1床

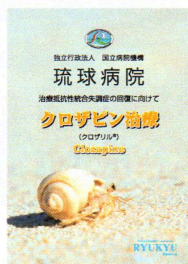
アルコール
3床

児童思春期ユニット
2床

※ 入院予約に関するお問い合わせは地域医療連携室へご相談下さい。

お問い合わせ時間
8:30～17:15(土・日・祝日以外)
TEL:098-968-2133(代)
内線:231・234
FAX:098-968-7370
地域医療連携室直通

治療抵抗性精神疾患への医療



クロザピリンの治療状況

治療抵抗性統合失調症に対して、平成22年1例目の投与を開始し、全症例は72例となりました。平成25年2月の新規導入は4例で、治療経過も良好です。退院数も24例を超えました。

m-ECTの治療状況

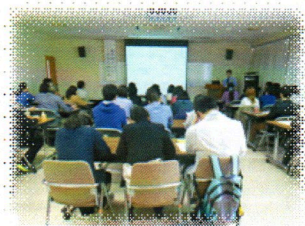
当院では、県立北部病院麻酔科のご協力の下、m-ECTによる治療を行っております。平成25年2月の治療実績は4例であり、各症例とも改善傾向が認められております。

こども心療科

沖縄県児童思春期診療整備事業の一環として3月2日(土)に立命館大学の谷晋二先生を講師にお招きし、「発達障がいと応用行動分析」研修会を開催しました。

学校の先生や保護者、施設や病院職員など、60名の参加がありました。応用行動分析の基本的な考え方からACT(アクセプタンス&コミットメントセラピー)までわかりやすく解説して頂き、すぐに実践に活かせる内容でした。アンケートでは参加者の96%が「とても役立った」と回答し、継続研修会を望む声が多数ありました。

当院では25年度も発達障がいや思春期の精神医療に関する研修会・勉強会を開催予定です。マンスリーやホームページでお知らせしていきます。



認知症医療

役割と診療状況

3月になって暖かくなり、患者さまと一緒に病棟の広い中庭に出て、お昼ご飯を食べました。

天気の良い日だったので、歌会での歌声もよく響きました。いつもは病室のベッドで臥床している患者さまも、中庭近くのホールの明るい場所で、一緒にご飯を食べました。ひな人形の形のちらしずしなど、笑顔で食事を楽しんでくれました。

24年度もそろそろ終わりですが、25年度もたくさんのイベントや行事を通し、治療だけでなく入院後落ち着かれたらすぐに、患者様が楽しめる生活を提供できるよう、そして、次の介護サービスへのスムーズな移行ができるように、活動を通して患者様のたくさんの「元気」を引き出せるように取り組んでいきたいと思っております。

4月のイベントは…「バスレク」です！どこに行くかはまだ検討中です。



アルコール・薬物依存医療

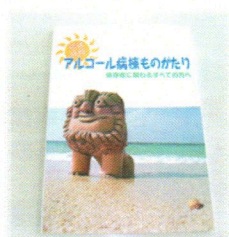
アルコール病棟ものがたり～依存症に関わるすべての方へ～が完成しました。

この度、2013年厚生労働省の発表によると、長寿日本一を保っていた沖縄県が女性3位に、男性はさらに30位に後退しています。当院に入院する女性患者さんの傾向を見ると20代～30代の患者さんが多く、既に重篤な合併症を発症している方もいます。

長寿崩壊の要因として、食生活の問題がクローズアップされていますが、若い世代のアルコールが大きく影響を及ぼしていると思っております。医療機関につながっていない潜在的アルコール依存症疑いの方も多いと思っております。

今回発刊した琉球病院アルコール病棟ものがたりを一読して頂き、周囲のアルコール問題で困っている方々に広めることができたら幸いです。

琉球病院のアルコール看護と沖縄の個性、病気や専門治療、早期介入及び結果のデーターもまとめています。関係機関にはお届けする予定です。是非、ご覧ください。



包括的地域精神医療 (ACT)

当院の訪問看護は、退院後地域で安定した生活を送れることを目標といたしております。退院後の課題といたしましては、大切な薬を中断してしまうこと・生活リズムを守れず昼夜が逆転してしまうことやお金の管理が上手くできずに使い過ぎで生活に困る等の病状がみられます。

これらの症状の悪化に伴い再入院する方が多くなっております。

患者様と家族の困ったことについて、地域の方々の支援を受けながら一緒に考え、安定した生活ができることを目標として訪問活動を行っております。

臨床研究部の活動状況

【二日酔い運転に関する検証②】～物質使用障害・嗜癖行動研究部より～

飲酒後、寝ることでアルコールの分解は促進されると、巷では迷信が蔓延っています。当院で被験者にビール500ml+泡盛30度1合を2名の被験者に飲んでもらい、定期的に呼気濃度を測定し、睡眠時と起床時のアルコール分解時間を比較しました。その結果、2名の被験者とも、睡眠時と覚醒時のアルコール分解時間にほとんど差はみられませんでした。この結果から、寝てもアルコール分解は促進されない、即ち「ひと晩寝たから大丈夫」は通用しないことがわかりました。

